

Title	【学会記事】経済学会特別セミナー
Author(s)	堀, 和生
Citation	経済論叢 (1998), 162(1): 86-86
Issue Date	1998-07
URL	<a href="http://dx.doi.org/10.14989/45229">http://dx.doi.org/10.14989/45229</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

# 經濟論叢

第162巻 第1号

- 
- 行政サービスの経営管理（1）……………田 尾 雅 夫 1
- スウェーデンの文化政策と  
分権型評価システム……………後 藤 和 子 19
- 大阪大都市圏の形成とニュータウン開発（2）…槌 田 洋 38
- 香港上海銀行と中国政治借款の展開（2）……蕭 文 嫻 57
- 組織帰属意識の国際比較研究の  
問題点とその課題（2）……………太 源 有 73

学 会 記 事

---

平成10年7月

京 都 大 学 経 済 学 会

## 【学会記事】

## 経済学会特別セミナー

1998年6月9日(火)午後3時30分から5時30分まで、法経北館会議室において、ソウル大学校経営大学長郭秀一教授と同大学校経済学部長李承勳教授をお招きして経済学会の特別セミナーが開催された。これは、昨年12月に京都で開催された日韓共同セミナーの成果を受け継ぎ、また京都大学大学院経済学研究科とソウル大学校経営大学・同経済学部が今年から3ヶ年にわたって行う共同研究の出発点に位置づけられる研究会であった。

昨年末から韓国において経済危機が急速に進行しつつあるなか、「転換期にある韓国経済」と題して、お二人に経済学と経営学の立場から現状に関する韓国学界での研究状況とそれぞれの見解を話していただいた。郭秀一教授は「韓国の経済状況の変化と企業の対応戦略」というテーマで、現在の韓国企業が抱えているいくつかの問題点を指摘されたうえで、それらを克服すべき方向性を企業戦略として提起された。李承勳教授は「取引関係の類型——競争と紐帯——」と題して、韓国はこれまで紐帯的取引関係が支配的であったが、それが現状に合わなくなっているため、競争的取引関係に転換する必要があると論じた。郭教授は「親財閥の立場」から、李教授は「反財閥の立場」からやや比喩的な言い方をされながら、経営学と経済学の方法に依拠し現在韓国が直面している問題を構造的なものであると捉え、そのため抜本的な転換が求められているとの共通する見解が述べられた。その後の質疑応答では、なぜ今危機が起こったのか、何故に金融・信用危機として発現したのか、韓国国民の負担が最も少ない対応策は何か、等熱のこもった議論がおこなわれた。そして、日本韓国ともに時代的な転換期にあるので、両国経済・経営に関して共に学び合う必要があり、今後の両大学による共同研究の進展が期待されることが確認された。

(堀 和生)